

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について、進捗状況を点検し組合及び構成市等と協議を進める。
②①に基づく取組み結果	協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市と協議を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合で廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し、環境向上を図ることが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」等の維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽維持管理等に負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 余熱利用還元施設利用者数	333	319	318	千人	業務取得
	ii 資源化率	19.6	17.8	18.8	%	業務取得
	iii 最終処分率	8.2	8.1	8.1	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	126,874	132,430	金額(千円)	内容	144,563	
国支出金(千円)			132,430	周辺整備費		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	126,874	132,430			144,563	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	廃棄物処理施設周辺整備計画については、構成市等との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う。また、買い物袋の持参推進運動や有価物回収も含めて効果的な広報の記事を研究する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う外、自治会の班回覧やイベントでのチラシの配布等方法や回数を増やしていく。
②①に基づく取り組み結果	本年度は、過去の利用者に生ごみ処理機の利用状況についてアンケートを実施し、周知の方法を広報以外に、自治会の班回覧やイベントでのチラシの配布等周知方法を増やす形をとった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量を目指し、循環型社会
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋の持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	有価物回収量	1,011	901	839	t	業務取得
	ii	買い物袋の持参推進運動交換件数	12,455	12,499	11,433	件	業務取得
	iii	生ごみ処理容器補助件数	16	15	27	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	12,088	11,301	金額(千円)	内容		12,494	
国支出金(千円)			10,344	有価物回収運動奨			
県支出金(千円)			181	生ごみ処理容器助			
市債その他(千円)			776	買い物袋持参推進			
一般財源(千円)	12,088	11,301				12,494	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を行う必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎの延命化計画について、組合と構成市と協議を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	「施設長寿命化総合計画」に基づき、組合、構成市と共に事業が進むよう協議・調整を進める。
②①に基づく取り組み結果	協議・調整の結果、施設長寿命化総合計画を策定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減量を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するため、建設施設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取り組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	ごみ処理費用(ごみ処理費・共同化処理費及びごみ処理施設償還)に係る負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	再資源化量	6,105	5,427	5,751	t	業務取得
	ii	最終処分量	2,547	2,467	2,492	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,226,554	1,293,570	金額(千円)	内容	1,237,669		
国支出金(千円)			612,043	ごみ処理費			
県支出金(千円)			593,110	共同化処理費			
市債その他(千円)			88,417	ごみ処理施設償還			
一般財源(千円)	1,226,554	1,293,570			1,237,669		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	「施設長寿命化総合計画」に基づき老朽化した施設の延命化に向けた作業の進捗を図る必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	老朽化した施設の安定稼働を図るための的確な維持管理、運営を行うとともに延命化に伴う調整等を進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				